えんぽとたんぽの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第183号

２０１６年１０月２３日
里山ビオトープ二俣瀬をつくる会
編集責任者：原谷 一誠

１．活動報告（ 事務局 記）

―９月２８日（水）事務局の原田ですが、田んぼの稲刈り準備でよけじの溝あげ中に沢山のドジョウ・沼エビが居ることで溝の泥揚げ・水抜きが出来なくなりました。日干しにはかわいそうなので小学校１年～４年１９名先生３名の野外学習で溝の中のドジョウ・沼エビ獲りをしていただきました。小雨の中泥まみれで子どもたちは楽しく学習ができて思い出になると信じています。主にはドジョウと沼エビでしたが、そのほかの生き物は、ヤンマトンボのヤゴ・子負い虫・水カマキリ・ドンコ・マ鮒も確認されました。

―１０月２日（日）稲刈り前の準備として、駐車場と田んぼ・東屋の周囲の草刈を行いました。ハゼ掛け用の竹の用意もしました。臨時の作業でしたが、１１名の会員が参加されました。

作業の後で、９月の役員会の代わりに、事務局４名と観察隊１名で話し合いをしました。

① 次回の役員会は、１２月２０日（火）に山大で、来年度の予定などを話し合います。詳細は後日に連絡いたします。

② １２月２４日の年末懇親会は、予定どうりに東屋にて行います。

９時から維持活動を少しして、１０時過ぎに懇親会に入ります。予算は２千円／人程度とし、酒と焼肉をメインとします。予算の都合上、出席者の確認を１２月初めに行い、確認は１２月２０日までとし、人数にあった買い物をしますので、出席者の当日での欠席はお金を徴収します。この時に来年度の行事計画も話し合います。

③ 稲刈りの応募者は２家族で、前田事務局で対応されますが、観察隊で行動してもらいます。

―１０月８日（土）**最初に、稲刈りの方法を説明し、豊作に感謝と安全祈願の式を行い、天気は雨も降らなくて、稲刈りとハゼ掛けを終えることが出来ました。終わってから、刈未て祭としてダンゴ汁を食べました。参加者は、親子自然観察隊の親８名・子１０名、二俣瀬子ども会の親１２名・子１３名、ふれあいセンター２名、山大学生３名、稲作体験の応募者２家族、会員２０名でした。１０月末までに、乾燥・脱穀・籾摺りを行い、１２月の餅つきの用意が出来ます。**

―１０月９日（日） ハゼかけが一部倒れてしまい、更に草原の川を猪がせき止め草原が沼になっていましたので、臨時にに招集をかけました。

ハゼかけの一列倒れた修復他そのたの８か所の補強を行ないました。その後で草原のため池状態は排水溝の修復と溝の周囲の草刈りで解決しました。また今後は水量も減じ適量の管理をします。参加者は原田会長・原谷・前田・吉富・金子・西村・原田マでした。

―１０月１６日（日）会員１２名の参加により、エコアップ（ため池および湿地帯の除草）、セイタカアワダチソウの除去、遊歩道周辺の草刈りを行いました。

―１０月２１日（金）稲作体験の脱穀（扱）が終わりました。何とか天気も持ちましたが田んぼは水浸しの中、会長・副会長含め８名の参加者で「扱ぎ末て」となりました」。
こいだ籾は本日強制乾燥に入り２３日に籾摺りです。西村会員宅で行っていただきます。

２．今後の予定（　事務局　記）

◎来訪者
―１１月２３日（水）宇部環境コミュニティ主催による環境サロン
◎行　事
―１１月６日（日）維持活動、草刈り、駐車場草刈り
―１１月２３日（勤労感謝の日）エコアップ（環境サロンご案内を兼ねて）
―１１月２６日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

３．来訪者の声

今月はありません。

４．会員の声-「　」　（ 記 ）

今月はありません。

５．親子自然観察隊　「　稲刈り　」　（　管　哲郎　　記　）

稲の実り具合とお天気が心配でしたが、稲も十分に育ち、稲刈りには絶好の時期と晴天の中、今年もにぎやかに稲刈りが行われました。稲刈りの前に“神事”を行いました、稲刈り前の“神事”は現在ではめったに見ることができないはずで、子ども会・隊員の男子・女子それぞれ１名が参加して行われました。田圃は少しぬかるんでおり、足元がとられ歩きにくく作業も大変でしたが、わずか１時間ほどで無事終了し、“ハゼかけ”も終え今年の稲刈りを無事に終えました。

稲刈りは“ノコガマ”を使用するのですが、普通の〝鎌“を使った子供さんが手を滑らせ、手袋の上から少し手を切るアクシデントがあり心配しましたが、幸いにも大したことなく病院で手当てしていただきました。

稲刈りの後は“刈りみて”という作業をねぎらう食事会を行い、今回は“ぜんざい”がふるまわれました。作業の後なので３杯もお代わりする子もいて、たくさん作られた“ぜんざい”も完食！年末のお餅つきを楽しみに解散しました。

稲刈り前の“神事”

稲刈りが始まりました

稲刈りの終り頃

“ぜんざい”をいただきます

親子自然観察隊の感想

★金子　実侑

昔ながらの、稲刈りはとても楽しかったです。今は、機械が多いですが、手作業でするのは大変でした。普段することはあまりないので、またやりたいと思います。

★金子（母）

普段使うことのない鎌ですが、すぐに子ども達は使い方がうまくなり、スピードアップしていく様子に、感心しました。なんでも、体験することは大事だなと、改めて感じました。田植えをし、稲刈りをし、そして収穫祭でお餅つきを楽しみ…　その間の大変な管理をしていただいていることに、感謝いたします。

★磯部ひなたくんのお母さん

当日は、朝から雨の心配でどうなるかと思いましたが、無事に作業が出来てホッとしました。息子もですが、私にとっても稲刈りは初体験で、手で一株一株刈り取っていた時代があったんだと思うと、農業を営む方々の苦労を体験出来たことは大きな学びになりました。前夜の雨で田んぼがぬかるんでしまい、息子にとっては刈る作業よりもなかなか抜け出せない長靴との格闘の方が大変だったようにも感じました（笑）　１２月に餅つきをするとのことで、無農薬・手作業で作られたお米を食べられるのが、今からとても楽しみです！

★木村さん（母）

過ごしやすい天気の中、家族で稲刈りを楽しみました。稲刈りの前に、お祈りをしましたが、「こんな風に昔はやっていたんだな」と思い、私も勉強になりました。過ごしやすい天候だったもあり、我が子たちは裸足になって、張り切って稲を刈ったり、はぜかけをしました。

たくさんの方が「すごいね」と声をかけて下さり、それが応援となって、すごく一生懸命に頑張っていました。途中で、子どもたちの汚れた長靴を川に洗いに行ってく下さった方もありました。昔はこうして、みん なで協力してお米を作り、みんなで思いやることや自然に感謝することが当たり前だったのだろうなと思います。最近は、すぐに食べ物が出てきたり、なかなか感謝の気持を持つことが難しい場合もあります。子どもたちにとっても、この秋の一日は、感謝の心を育むことにつながったのではないか・・・と思います。外で体を動かすと、清々しい気持ちになります。子どもたちも観察隊に参加するのを毎回、楽しみにしています。今後共、どうぞよろしくお願いします。

★仲嶋さん（母）

こんにちは。先日は稲刈り体験楽しく参加させていただきました。最初は上手く出来ずに、ブツブツ言っていた娘も色々な方からのアドバイスを聞きながら作業していくうちに上手になっていき楽しく作業ができました。帰り、コンバインで稲刈りをした米はどうなって機械の中に入っていくのか？どうやって干しているのか？と話題になり、食について学べた一日でした。ありがとうございました

★月本直秀

稲刈りは、かまでいねをかったり、束ねてあぜかけしたり、楽しかったです。思っていたより、早く終わりました。ぜんざいもおいしくて、２回おかわりしました。

★阿部真愉

今日 稲刈りをしました。久しぶりにビオトープに行けたのが嬉しかったです。稲をサッサと刈っていると母から 「もうちょっとゆっくり刈って！」と 言われました。なぜ？と 思ったけれど サッサと刈ったら 短時間で相当疲れてしまうんですね…長靴がドロドロになりました。あまりにも汚れていたので洗う気がしませんでした。今日の稲刈りはチョッと疲れたけれど、とても楽しかったです。ビオトープに又行きたいです。

★阿部（母）

年にいちどの稲刈りは 日頃の皆さんの行いでしょうか、 不安定なお天気の合間を縫って雨にあたることなく作業を終えることが出来てホッ…… 久しぶりに汗を流しました。刈り終わった稲のはぜ掛けの景色に心が癒されました。

★下川航平

１５の束になるようにいっぱい刈りました。疲れたけど楽しかったです。

★下川（母）

稲刈りは今まで束ねる方をして、４年目で今回初めて刈り取りをしました。腰を落としすぎないで刈るのだと教えてもらいましたが、その体勢を維持するのは私には不可能で、しゃがみ込んでの作業になりました。翌日はひどく筋肉痛になり、お米の有り難さが体に染みた今回の稲刈りとなりました。ありがとうございました。

６．ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」　　（　管　哲郎　記）

(10) クロシジミ　*Niphanda fusca*　（絶滅危惧Ⅰ類）

鱗翅目　シジミチョウ科

開発や雑木林の管理放棄、草原環境の衰退により数が激減したシジミチョウです。山口県には秋吉台、羅漢高原などがあり、かろうじて絶滅を免れましたが、全国的には絶滅したところもあります。

特殊な生態を持っており、アブラムシのつくクヌギ、コナラ、ススキなどに産卵し、幼虫はアブラムシの甘露（お尻から出される甘い液体）を食べたのち、クロオオアリの巣に運ばれ、巣の中でアリが育てます。草原とクヌギ、クロオオアリの３つの条件がそろわないとクロシジミは育たないのです。草原だけでもダメなようです。

７月上旬～８月中旬にかけて秋吉台のクヌギ林で見られます、大きな樹より低い木のほうが観察しやすいので、観察に出かけてはいかがでしょうか、同じ絶滅危惧種の“オオウラギンヒョウモン”も同時期に見られますし、そのほかとして“ギンイチモンジセセリ”という準絶滅危惧種のセセリチョウも７月には草原で見られます、少々暑いですが無駄にはならないと思います。

クロシジミ　♂

クロシジミ　♀

産卵するクロシジミ♀

クロオオアリ、アブラムシ、幼虫

７．会よりの連絡事項

１.宇部市市制９５周年の式典は、１１月３日に行われますが、田村副会長が出席されます。

２．宇部環境コミュニティ主催による環境サロン「里山ビオテープ二俣瀬の維持と活用について」が１１月２３日に実施されます。環境省補助事業「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」で採用された「こども達の生きる力をはぐくむための地域教育力向上プロジェクト～新たな宇部方式の構築～」により、ビオトープをどういうレベル（全市なのか北部なのかなどなど）で活用可能か。その他の拠点についても調べて、体系立てて整理する。またプログラムや指導者の活動内容について整理するプロジェクトです。

１０時ビオトープ駐車場集合し、関根事務局長の案内で移動され、１０時３０分～１１時００分　体験作業され、１１：１５～１２：００　その他の場所の視察

昼食後、二俣瀬市民センターにて、１３：００～１６：００　ワークショップ「里山の維持に自分としてできること」「二俣瀬ビオトープをどうすればよいか」を司会はコミュニティ側にて実施されます。

よってこの日を臨時の維持活動日としますので、会員は午前中の維持活動に参加をお願いします。

８．編集後記

今年の稲刈りでもけがをした子供がいた。何度も安全にと注意しても、事故が起こることはある。危険な生き物は何かとか、作業にしてもこれには気を付けて下さいと説明はするが、事故を未然に防ぐことは難しい。では、事故が起こった時にどうするかは事故の内容にもよるが、急病であればまずは救急車を呼ぶだろう。しかし、けがをした、虫に刺された場合には、まず病院だろうが、土日では休日医療センターか、土曜日午前中であれば、開業している病院もある。少しくらいは、ケーススタディでもして、対処方法を検討しておく必要があるのではと考えました。もちろん怪我もなく安全に事が進むのが一番ですが。

（　原谷　一誠　記　）